

日野原重明記念「新老人の会」石川



会 報 (64号)

発行日 2025年7月1日(火)

2025年度定期総会 & 昼食懇話会の開催

高 木 正 二

2025年度定期総会&昼食懇話会が5月24日(土)、会員23名の参加により金沢ニューグランドホテル4階「相生」で開催されました。

定期総会が高木事務局長の司会で開会し、冒頭、山内ミハル世話人代表は、昨年の日野原眞紀氏を講師にお招きした第3回会員の集いで、参加した会員以外の参加者から「『新老人の会』の会員は若い」と評されたことを紹介し、日野原先生の教えに沿って「新老人の会」を楽しい会にしていきたいと挨拶しました。



次に、新入会員の紹介があり、今年度加入した小山俱子さん、井口紀美さんが紹介されました。続いて議事に入り、始めに、事務局から、本日の総会が出席23、委任状8、計31で、会員数35の過半数を超えており成立している旨の報告があり、議長に選出された大島恒治さんの進行で以下の4議案

第1号議案 2024年度(令和6年度)事業報告

第2号議案 2024年度(令和6年度)会計決算報告

第3号議案 2025年度(令和7年度)事業計画(案)

第4号議案 2025年度(令和7年度)会計予算(案)

が審議され、満場の拍手で承認されました。



2025年度(令和7年度)事業計画(案)では、8月の第2回会員の集いで県金沢城二の丸御殿復元整備推進室による「金沢城の復元整備」についての講演会を実施することなどが承認されました。

総会終了後昼食懇話会が開かれ、参加者は食事を摂りながら和やかに会話を楽しんでいました。途中、サークルメンバーによる発表、参加者の芸能発表があり、会場が大いに盛り上がりしました。

まず、「朗読を楽しむ会」の福岡恒忠さん、大島恒治さん、植松茂さんが「こぞうさんのおきょう」、「『ガマの油』の口上」、「石川県の方言」について朗読や紹介を行い、会場から大きな拍手が送られました。

次に、「カラオケを楽しむ会」のメンバーの中谷茂次さん、吉田弘之さん、高木に長田文子さん、梶睦子さん徳成信子さんが加わってギター伴奏による「影を慕いて」が披露されました。ギター伴奏が拙い場面もありましたが、新しい取り組みに会場から暖かい拍手が送られました。

続いて、横山欽一さんが郷土力士「大の里関」が4度目の優勝を決めたことを祝して新作の「相撲甚句」を朗々と歌い上げると、盛大な拍手が沸き起こり、会場全体で郷土力士の活躍を祝いました。

会員の発表を見る機会はあまりなく、来年度もサークルメンバーや総会参加者による発表が行われるよう期待したいと思います。



発表する「朗読を楽しむ会」のメンバー



演奏する「カラオケを楽しむ会」のメンバー等

終わりに、「ふるさと」を全員で歌い、閉会となりました。



『相撲甚句』の発表

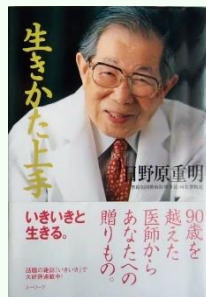


《心に残る日野原先生の言葉》

中 谷 茂 次

日野原重明先生が遺された、ひとつひとつの言葉が深く身に染みんでいます。その中でもより深く身に染みている遺訓を振り返るとすれば、『創めることさえ忘れなければ、人は何時までも若さが保てます』です。ここで重要なのは、創めることであり、始めるではありません！

毎日毎日ルーチンワークとしてやって居ること。例えば洗顔、歯磨き、朝食、掃除……。これらは、何度始めても若さが保てることにはなりません！創めることとは、これまでの人生で体験したことが無い全く新しいことに挑戦することです！人生初の新しい事に挑戦する時のワクワクドキドキ感が、老化



を防ぐらしいのです！

言い換えると、同じ種類の仲間同士で同じことだけして群れ合っている限り、人も社会も成長しません！と遺されています。子供は子供同士、学生は学生同士、老人は老人同士。年齢性別、社会の役割も同じ層の人達で群れ合っているのは、社会も個人も老化、劣化するだけだと先生は遺されました。

次の遺訓に移ります。『見えるモノよりも、見えないモノの中に真があるのです』見えないモノの代表は人の心と、未来です。見えない部分は、見えている、聞こえている部分から想像するしかありません。動物は別として、人間は心の中にあるものを、そのままの形で100%吐き出すことはしません！特に日本人の成人は……。つまり、真の部分は見えないし、聴こえないのです。しかし、社会人として生きて行くには、この見えてな

い部分を、如何にして探り出すか？この辺の舵取りが人生航路の難しい所かも知れません。時に見えている部分だけを判断材料として、人生航路舵を切る人が居ます。このような人は、子供の様に心の中をそのまま純粋に出してしまう、正直な性格なのでしょう！

しかし、社会人同士の人生航路では、先生が遺された見えない部分に真があることを胸に刻んでおかななくてははいけません！私は、この3月で81歳を過ぎましたが、新老人の会会員仲間では一番の若造です！今年の正月に掲げた、目標は三つ。自分史の執筆発行、船釣りで10キロオーバー鰯を揚げる、新しい釣り相棒を見つける。先生から見れば曾孫のような年齢だが、これからも新しい趣味と、新しい友人、新しい社会との接点を探しながら、唯一度の人生を楽しみます。

「老いを生きる」生活雑感

この頃思うこと 一母の面影—

宮 下 美智子

「春耕の先ず白山を拝めけり」

「偕老の農機具手入れ水温む」

「水温む浸けて明日待つ母の鍬」

手を合わせていた母の姿です。この季節になって思い出します。

有難う・感謝の気持ちで送っている毎日です。私が「九人の子供をよく育てたね」と言っていると、「私しや、育てたのでないがや。あんた

ら育ってくれたんや」と言って笑う母。その言葉がじんと胸に響きました。

母は子供の前では涙を見せなかった。

ある日、風呂の薪をくべている時（昔は、囲炉裏も風呂も全て薪を使いました）、目頭を押さえていた母。「どうしたんや」と聞くと、「煙たくて目をふいとるがや」と言って童謡を口ずさみ始めました。心の辛さを子供の好きな歌で紛らしていました。我慢強く、そのうえまわりの人を気遣う母でした。

「寒月や母を偲べるわらべ歌」

「母の声して鞆^{ブランコ}の揺れ残る」

「子を送る母の小さく萩の陰」 前向きにくよくよしない笑顔の母。

「母の齡超えて母恋う菜の花畑」 時には、私達を叱咤激励することもありました。

今ここにある事は、有り難き事、幸せな事に感謝です。

元気を頂き一步一步慌てず、初心を忘れず、自分の生き方を選んでと心がけています。芭蕉の句をふと思い出しました。

「さまざまなこと思い出す桜かな」

人の心の中は、「十人十色」と言い切った句のように思います。

「サイタ サイタ サクラガ サイタ」

私達の小学校一年生の時は、石盤（ノート代わり）を持って学校に行きました。カタカナの五十音が読み書きできる頃になると、ノートになりました。

思い出は尽きません。

第2回会員の集い&昼食懇話会開催のお知らせ

日 時：2025年8月23日(土) 11:00～13:00

講 師：藤村秀人氏（石川県金沢城二の丸御殿復元整備推進室課長）

演 題：金沢城の復元整備

場 所：金沢ニューグランドホテル

会 費：3,500円(昼食代を含む)

※同封の返信用ハガキに必要事項を記入し8月8日(金)までに投函してください。



季節の花見会の開催

高 木 正 二

「季節の花見会」は5月1日(木)、11時30分から大乘寺丘陵公園で会員17名の参加により開催されました。

晴天に恵まれ、うららかな陽射しの下、気持ちよく花見をすることができました。

車に乗り合わせて公園に到着した参加者は、まず見晴らしハウス(休憩所)で昼食を摂りました。皆さんゆっくりとお弁当を食べながら会話にふけていました。特にデザートとして添えられたオレンジが女性陣に人気で、余ったものを皆で分け合って食べていました。



昼食後、見晴らしハウス上段にある「ツツジ園」でツツジを観賞しました。「ツツジ園」には5種、13,000株の花が植えられており、参加者は思い思いに花を楽しんでいました。残念ながら、ツツジは見頃よりやや早く、特に白色の花がまばらな状態でしたが、ピンクの花は満開に咲き誇っていました。



ツツジの花を鑑賞後、車で上部駐車場に移動し、日野原重明先生百歳記念樹と「新老人の会」石川支部設立5周年記念樹の様子を確認、併せて建て替えられた標柱の様子も確認しました。参加者からは、新しい標柱について「腐食しにくく、おしゃれな感じで良かった」との意見がありました。

車椅子を用意するなど会員の高齢化に伴い準備が大変な面もありますが、皆さんの笑顔を見ると来年も実施したいと思っています。

第17回会員余技作品展開催のお知らせ

第17回会員余技作品展を次のとおり開催いたします。写真、絵手紙、俳句に限らず手作りの作品であればジャンルは問いません。皆さんの出展をお待ちしています。

期 間：2025年7月29日(火) 13:00～
2025年8月3日(日) 15:00

場 所：石川国際交流サロン

主 催：日野原重明記念「新老人の会」石川

同封の申込書に必要事項を記載し、7月16日(水)までに提出をお願いいたします。

川 柳

(順序不同)

大 島 恒 治

すっぴんの娘をみたら別人だ

赤い糸そろそろほつれが見えてきた

新 川 光 子

大の里うれし悔しの千秋楽

高 木 要 子

銀行は昼に休店一時間

句読点ヤングたちは使いません

中 谷 茂 次

創めれば百歳過ぎてても老化無し

商品券貧しい人に配らない

我が家での売るほどあるは妻の愚痴

福 岡 恒 忠

玄関でいつも微笑むリンドウ画

交わし合うラブの声掛け天高し

高 木 正 二

着信音鳴っても出ない固定電話

怪しいぞビデオ通話の警察官



春待ちの迎え花



第八回 季にあひたる 和のしつらい洋のしつらい

2025年3月11日(火)～3月23日(日) 石川国際交流
サロン(広坂)にて「物語(ものがたり)」をテーマ
に、しつらい作品展を開催しました。

限りなく夢が綴られ、物語がうまれます。主人公は
私たちを未知の世界へと誘い、人間にとって大切な
生き方を伝えてくれます。

大正末期に建てられた民家にて、子どものころから
親しんできた物語を思い出し、優しさや慈悲の心を
たずねる旅にでかけます。

「春待ちの迎え花」。「妖精たちのガーデンパーティ」。
ディズニー映画の「ピーターパン」「白雪姫」「美女
と野獣」「シンデレラ」。日本最古といわれる「竹取
物語」。平安貴族の社会を描いた「源氏物語」。

8つのテーマをしつらえた、テーブルコーディネート
作品をご覧ください。

物語の主人公たちは、勇気・愛・優しさ・努力を経
験し 奇跡を起こします。



妖精たちのガーデンパーティ



ピーターパン



白雪姫



美女と野獣



シンデレラ



竹取物語(右)

源氏物語(左)

妖精たちのガーデンパーティ

おとぎ話が大好きです
ピーターパンや七人の小人たちの世界に
何とか入り込めたら
どんなにワクワクしたでしょう
幼いころ 暮らしていた倫敦
ガーデンパーティに誘われました
広大な庭には あちこちに きのが出現
その時 英国紳士に教えてもらった
妖精の秘密があるのです
「きのは 妖精たちのテーブルと椅子だよ
だから このままにしておこうね」
あの日から 私には 妖精が見えるのです
妖精は 幸せを運んできます
能登や加賀にも
きっと

暮らしの中に和魂洋才 早川由紀

日々の俳句 花明り

(順序不同)

鈴木雅夫

青空に光る麦秋消えないで

麦秋や馬いかなきて後寂し

宮下 美智子

木天蓼の明かりに翔つや峽の鳥

夕暮れの谷間に藤の花明かり

福岡 恒忠

街なかに水面明るき田植え時

父の日に孫の賄い三世帯

大島 恒治

紙魚おまえ勝手に傍線ひきおとり

夜光虫群れて光りて波の形

北川 むつみ

ふきのとう見るも食べるも味深し

清明や水に浮かべる木の葉舟

新川 光子

ひっそりと香り放ちて春の薔薇

素麺を小桶で冷やし夏座敷



はめ字 作品

はめ字の面白さは、作る人のアイデア次第で全く違う文章が出来るところです。風情や哀愁といった日本語の面白さを感じながら創作にチャレンジして見ませんか。多数のご応募をお待ちしています

締め切りは8月20日 高木正二まで

次回作品募集

		く		
		り		
し	え	か	り	く
		え		
		し		

す	違	あ	人	付
ぐ	う	き	は	き
に	か	ら	き	あ
破	値	か	付	う
談	感	に	く	二

高木 要子

よ	か	あ	め	あ
そ	ら	き	つ	あ
に	か	ら	き	あ
い	い	か	が	の
こ	だ	に	ね	こ

大島 恒治

口	金	あ	ト	五
ス	の	き	ト	輪
に	か	ら	き	あ
期	く	か	た	ス
待	得	に	え	リ

飯田 世三

静	病	あ	時	昨
か	状	き	元	日
に	か	ら	き	あ
去	く	か	な	っ
る	し	に	し	た

高木 要子

ら	頭	あ	場	観
く	つ	き	所	光
に	か	ら	き	あ
行	っ	か	い	な
く	て	に	て	場

新川 光子

贈	天	あ	珍	今
物	父	き	し	日
に	か	ら	き	あ
想	ら	か	出	り
う	の	に	合	し

福岡 恒忠

こ	に	あ	く	あ
こ	く	き	ど	あ
に	か	ら	き	あ
よ	ら	か	た	の
べ	ず	に	い	こ

大島 恒治

さ	離	あ	妻	愛
楽	婚	き	に	に
に	か	ら	き	あ
い	大	か	れ	き
こ	げ	に	つ	た

飯田 世三

天	無	あ	火	お
候	事	き	事	お
に	か	ら	き	あ
期	祈	か	え	め
待	る	に	た	で

新川 光子

虹	天	あ	な	行
橋	に	き	が	く
に	か	ら	き	あ
着	か	か	祈	し
く	る	に	り	た

福岡 恒忠

面	言	あ	に	結
目	う	き	と	婚
に	か	ら	き	あ
聞	ら	か	め	の
け	真	に	き	人

飯田 世三

地	横	あ	れ	優
元	綱	き	熱	勝
に	か	ら	き	あ
朗	く	か	声	っ
報	実	に	援	ぱ

小の里

編集後記

今年は昨年と違い、穏やかな幕開けとなりました。しかし、4月に入って夏のような暑さの日があるかと思うと、冬に戻ったような寒さのため、片付けた冬服を出したり…と、気温の変化の激しい日々が続きました。けれども、5月の総会にはお元気な皆様にお会いし、昨年の活動を振り返りつつ、今期の活動計画が承認され、その報告と寄せられた原稿を載せて会報64号をお届けできますことに感謝です。次号は10月発行です。皆様の投稿をお待ちしております。
(山内ミハル記)

次号の発行は2025年10月1日、原稿締切日は2025年8月20日です。字数は原則800字程度でお願いします。

送付先：高木正二

〒920-3114 金沢市吉原町ヨ190番地

E-mail sytakagi@sea.plala.or.jp

編集責任者：世話人代表 山内ミハル

編集委員：鈴木雅夫、新川光子、福岡恒忠、高木正二

印刷：「新老人の会」石川 事務局